

令和6年度 個人戦の変更について

変更理由

ここ数年、個人戦予選では地区による出場人数の違いにより、予選の試合数がアンバランスになってきています。また出場人数（登録人数）も減少傾向にあります。そこで常任委員会で検討を行い、以下の変更案を作成しました。提案1は現在の3地区制を維持しながら予選の平等性をはかるという面から、提案2・3は出場人数の増加という面からの変更案です。

提案 個人戦予選（地区配分）の変更

※ストレートインについては変更ありません

I 新人大会個人戦

(1) シングルス 64ドロー

- i ストレートイン 高校総体またはインターハイ予選ベスト8 + 群馬県国体選手
- ii 予選本数 (64 - ストレートイン人数)
 - ① 高校総体またはインターハイ予選シングルスベスト16～32の1・2年生のiを除く人数を該当地区に割り振る
 - ② 残りの本数を各地区の申込数に応じて均等に割り振る

(2) ダブルス 32ドロー

- i ストレートイン 高校総体またはインターハイ予選ダブルスベスト4のペア（組替えOK）
- ii 予選本数 (32 - ストレートイン組数)
 - ① 1・2年生で、a)～b)の組数を該当地区に割り振る（iは除く）
 - a) ペアのダブルスポイントが「10ポイント」以上
 - b) ペアの1人が2大会ともベスト8以上
 - ② 残りの本数を各地区の申込数に応じて均等に割り振る

2 高校総体個人戦

(1) シングルス 64ドロー + 1年生A級

- i ストレートイン 8 新人大会シングルスベスト8 (+ 1年生A級)
- ii 予選本数 56 (64 - 8)
 - 24 新人大会シングルスベスト16 (8人) + 32 (16人) を該当地区に割り振る
 - 32 各地区の申込数に応じて均等に割り振る

(2) ダブルス 32ドロー + 1年生A級 (+ 1年生A級)

- i ストレートイン 4 新人大会ダブルスベスト4
- ii 予選本数 28
 - 12 新人大会ダブルスベスト8 (4組) + 16 (8組) を該当地区に割り振る
 - 16 各地区の申込数に応じて均等に割り振る

令和6年 3月 8日

群馬県高体連テニス専門部